

『SHIT AND LOBSTER』

舞台中央、床の一点から放射するように張られた布がある。

美術家曰く、「ピンと引っ張ったハイレグ」とのこと。

抽象的な現代アートのようにも見えるが、あくまで「ピンと引っ張ったハイレグ」だ。

今回はふざけようと思う。

定刻になると黒っぽい衣装を着た男女が舞台上に現れる。

喪服にも見えるがクロスのようにも見える。

それぞれが抽象的な彫刻のような形状で止まる。

一見、コンテンポラリーな様相を呈する。

が、ふざけてるだけである。

舞台上の彫刻が増えて行くに従って明かりも定まってくる。

最後の一人の男（伊藤栄之進）が舞台前方中央に俯き加減で位置した時に完全に明かりが決まる。

同時にそれっぽい音が鳴っても良いかもしれない。

男はシェークスピア作品で言うところの口上の役割。

男

（軽くおじぎをする）皆さんは、SEXをしたことがありますか？ 私はあります。

なんですか？ どうかしましたか？ 厳密に言えば僕はSEXそのものだと言えま

す。なぜなら私は体位だからです。大丈夫ですか？ ついてきますか？ SEX。SEXという言葉をグーグルで検索をかけてみれば、そのヒット数は三十億五千万件。ヤフー辞書でSEXの意味を引っぱいてみるとシンプルにこう書いてある。SEX、性交。うん、性交、性の交わり。そしてそこには例文が三つ書かれている。

クロスA (右近良之) B (高橋悠) C (飯野雅彦) に光が当たる。

クロスD (田所あずさ) E (原田新平) F (榊木並) がペアとして存在している。

クロスABCはDEFの台詞に合わせてコンテンポラリーな動きをする。

A have sex with a parson.

男 意味は？

D 人と性交する。

男 うん、まあ、そりゃあそうだろう。

B sex for drugs trade.

男 翻訳すると？

E 麻薬欲しさの売春。

男 お、お。

C The doctor warned him against too much sex.

男 もう嫌な予感しかないけど。

F 医者は彼に性生活が過度にならないように警告した。

ABCDEFに当たっていた明かりが消える。

(ABCを全員で群唱とか、だっさくて良いかもしれません)

男 どうしたんだヤフー辞書。…さて、今回はそんなSEXにまつわるお話。みなさん、四十八手を御存知ですか？ そうです。あの、四十八手、松葉くずし、仏壇返し、乱れ牡丹などでお馴染みの、あの四十八手、つまりは体位。私にとっては48人の仲間たち、通称四十八士。みなさん、その四十八個あると言われている体位に、実は四十九個目、四十九手目が存在していることは御存知でしょうか。ふむ、御存知ない。当然です、その体位は幻の体位と言われ極少数の人達にしか知られていません。そう、今回はその幻の四十九手目の体位にまつわるお話。もうお分かりですね？ そうです、その四十九個目の体位、それが私です。申し遅れました…私の名は…shit and lobster。

それっぽい効果音が鳴り響き、それっぽい音楽が流れる。

この芝居の中で一番カッコいいそれっぽい明かりと共にABCと男がそれっぽく去る。

センターにある巨大なハイレグにそれっぽいオープニング映像が映し出される。

椅子とテーブル。壁にはカレンダー。12月30日の予定に *shit and lobster* と書かれ赤丸がされている。かおり（織田あいか）は婚姻届を見ている。記入漏れが無いかどうかを確認しているのだが嬉しくてたまらない様子。剛也（哲人）は嬉しそうなかおりを見つめつつもどこか引いている。時おりカレンダーの方を気にする。

かおり …うん…うん…うん…これでよしと。記入漏れはないよね。

剛也 …。

かおり 剛也も確認して。（渡す）

剛也 ああ（さっと見て）いいんじゃない。

かおり ふふーん。ちよっと貸して。

剛也 え？ ああ。（渡す）

かおり ふーん。

剛也 何。

かおり だってさ、これ、提出しちゃったらもう見れないんだよ。

剛也 ああ、そうなんだ。（カレンダーが気になる）

かおり …わたし、山田になるんだねえ。

剛也 ああ。（カレンダーが気になる）

かおり もっと珍しい苗字でも良かったけどね。

剛也 ははー、無理言うなよー、俺は生まれてこのかた山田だもーん。（カレンダー）

かおりは幸せそうに婚姻届を眺めている。

剛也は意を決してそれを奪い取り細かくたむ。

剛也 あのさ、かおり。

かおり …？

剛也 俺達さ、結婚するわけじゃんさ。

かおり そうだね。

剛也 これから夫婦になるわけだよな。

かおり うん、そうだね。

剛也 夫婦ってのはさ、死ぬまで添い遂げるものだよな。

かおり うん、もちろん。

剛也 そう、そうだよな。だからまあ、その、死ぬまで添い遂げるにあたってだ。

かおり …？

剛也 秘密は無しにしようじゃないか。

かおり え？

剛也 ああ。

かおり 秘密？

剛也 ああ。

かおり わたし、剛也に秘密なんて無いよ。

剛也 ……そうか……そうか……じゃあ、じゃあさ。

かおり え、なに？

剛也 (カレンダーを指して) あれ、なに。

かおり え？

剛也 あれ、あのカレンダー、12月30日のところ。Shit and lobster って書いてあるあれ。

かおり ……ああ、アレね。

剛也 去年さ、一緒に住み始めた頃さ、あのカレンダー買って、まっさきに書き込んだよね。ねえなに？ 一年先の予定って。一年も先なのに真っ先に書き込まなければいけない予定ってなんなの？ 正直怖いよ。俺、この一年間気が気じゃなかったんだけど。

かおり あれは、その、なんていうか、ねえ。

剛也 なに、俺には言えないことなの？

かおり そういうわけじゃないんだけど。

剛也 ほら、あるじゃん、それ、秘密じゃん、これから生涯を共にしようという俺に対して早速秘密を持ち込んでるじゃん。

かおり だから、あれはそういうんじゃないだってば。

剛也 じゃあなんなの、shit and lobster って。ネットで調べても全然引っかけられないし。

かおり そりゃあねえ。

剛也 ……これ(婚姻届)出さないから。

かおり ええ！

剛也 shit and lobster の意味教えてくれないとこれ出さないから。

かおり そんな……わかった、わかった、ちゃんと話すから。

剛也 ホントに？

かおり うん、ちよつと恥ずかしいけど。

剛也 え？ Shit and lobster って恥ずかしいことなの？

かおり まあ、うん。

剛也 うん、それで？

かおり ……覚えてないかな、去年の今頃のことなんだけど。

剛也 去年の今頃？

かおり うん。

剛也 同棲し始めた頃だよね。

かおり そう。同棲始めた、その日の夜だったと思うんだけど。

剛也 同棲始めた日の夜？ ん？

かおり …覚えてないか。

剛也 ん？ ああ、でも、確かあの日、俺、失神しちゃって。

かおり そう！ それ！

剛也 え？

かおり それがそうなの！

剛也 俺が失神すると *shit and lobster* なの？

かおり ううん、そうじゃなくて、なんで失神したか覚えてるでしょう？

剛也 それは…だって…ほら、ねえ。

かおり (力強く頷く)

剛也 え？

かおり (頷く)

剛也 あれ？

かおり (頷く)

剛也 まさか、あれが *shit and lobster* なの？

かおり (涙目で頷く)

剛也 えく！

かおり あく恥ずかしい！

剛也 ああ、でも、確かに、あれは、うん、あれは凄かった！

かおり やめて！ 恥ずかしいから思い出さないで！

剛也 だってあの時に俺、多宇宙に浮いてたぜ、精神的な意味じゃなくて物理的に。

かおり (剛也をぶつたたく)

剛也 (何故か嬉しそう) え、え、え、でもなんで？ なんでそれをカレンダーに書いて

ておくの？ それも一年も前からさあ。

かおり …それはね…なんて言ったら良いのかなあ…そのお…私はそんなに…そんなにだ

から…出来て年に一回なの…でもほら、あのとき剛也が物凄く喜んでくれたから、

私、剛也に喜んでもらいたくて、12月30日があの日から丁度一年だからね、一

年経ったらまた出来るから、したらまた剛也に喜んでもらえるとと思ったから、そ

れで思わず書き込んだじゃったの。

剛也 …俺の事を思ってたってこと？

かおり うん。

剛也 マジでかあ。いや、でも一年に一回しか出来ないって、いやでも確かにあれなら

納得かもしれない。

かおり 気失ってたもんね。

剛也 ああ。そうか、あれが *shit and lobster* なのか。

かおり そうなの。

剛也 そっかあ。

かおり うん。

剛也の顔面が歓喜から絶望に変わる。

剛也 ……でさあ。

かおり ?

剛也 何処で覚えたの？

かおり え？

剛也 あれ、何処で覚えたのさ。

かおり それは…

剛也 かおり、知ってる通り俺はお前に会おうまでは…

かおり 童貞。

剛也 そう、童貞だった。だから経験値では語れない。でもね…

かおり ?

剛也 あの *shit and lobster* が普通じゃないってことはわかる。経験はなくてもわかる。なぜなら、そこそこAVは見てきたからね。

かおり (ハツとする)

剛也 俺が今まで見てきたAVにも、あんなのは無かった。あんな(自由)みたいなのは。…さあ、かおり、教えてくれ、お前はあれをいったいどこで覚えてきたんだ。

かおり ……そこそこって。

剛也 え？

かおり そこそこってどれくらい？ どれくらいの頻度でAV見てるの？

剛也 え？

かおり なんでなの？ なんで男の人はそうなの？ なんでそういうの見るの？ 私がいるのに！

剛也 いや、あの…

かおり 答えて！ そこそこってどれくらい？

剛也 ……週、2？

かおり 週2？ そんなのそこそこじゃない！

剛也 いや、週2なんてそこそこだって。

かおり 違う！ 少なくとも私の思うそこそことは違う！

剛也 じゃあお前の思うそこそこってどれくらいなんだよ！

かおり 私の思うそこそこは…

剛也 お前の思うそこそこは…違う、論点がずれてる。俺も一瞬ムキになっちゃったけど今はお前とそこそこ論を戦わせたいわけじゃない。

かおり でも…

剛也 かおり！ 俺がどれくらいAVを見ているかは今度ちゃんと話す。それよりも何よりも今は *shit and lobster* のことなんだ。

かおり そんな真剣な顔しなくても…

剛也 いや、これは、ほんと、マジなんだ。

かおり 剛也。

剛也 俺さ、お前のことホントに好きなんだ。

かおり なに、突然。

剛也 でもな、好きだから辛いんだ。好きであればあるほど辛いんだ。

かおり …剛也。

剛也 元彼なんでしょ？

かおり …。

剛也 (ちよつと泣いてる) 元彼と、その、あーだこーだしてる時に教わったんでしょ？
ねえ、そうなんでしょ？

かおり …。

剛也 …(俯きながら) 俺…いないからさあ…お前以外ないからさあ…変なのかなあ
こういうの…いつも考えちゃんだよ、お前の過去のこと…お前が俺用の歯ブラシ
買ってきてくれる時、なんの迷いもなしに「かため」を選んでくのを見たりする
とき「ああ、前の彼氏はかための歯ブラシ使ってたんだ」とか考えちゃうんだよ、
俺もかたがめが好きなんだけど。

かおり (声に出さずに「めんどくさい」)

剛也 (かおりを見て) こんな男、めんどくさいと思うだろ？

かおり ぜんぜん。

剛也 ホントに？

かおり うん。好きだから。

剛也 …そっかあ。

かおり ねえ剛也。

剛也 ん？

かおり こういふ話すると剛也を傷つけちゃうのわかってるんだけど、嘘はつきたくないから言うね。

剛也 うん。

かおり …剛也が想像してる通り、アレは前の彼氏との時に知ったの。

剛也 …。

かおり 今の言い方で伝わってる？

剛也 うん。

かおり でね、大事な今は今から言うこと。私は剛也の事が好き。

剛也 うん。

かおり 昔つきあってた人なんて関係無い。

剛也 うん。

かおり 誰よりも剛也が好きなの。

剛也 ……。

かおり ……ごめんね、一番最初に剛也と出会ってれば、剛也がこんなに苦しむこともなかったのにね。

剛也 かおり。

かおり ……。

剛也 ごめん、かおり、なんか、俺、こんなつまらない嫉妬なんかして。俺、いつか平気になるから、いつか自信持てるように頑張るから。かおりの昔の男なんか嫉妬しない、デカイ男になるから。

かおり うん。

剛也 ……だから、もう聞かないから、一つだけ聞かせて。

かおり なに？

剛也 今まで何人くらいとつきあったの？

かおり そんなに多くないよ、えっと、いち（指折り）に（指折り）

剛也 （ほっとする）

かおり （前の台詞からの連続）にじゅう…

剛也 ええ！

かおり 嘘、二人、二人だけ。

剛也 なんだ、良かった。

かおり （セーフ）ところで剛也。

剛也 ん？

かおり その、やっぱりあの *shit and lobster* って珍しいの？

剛也 というと？

かおり 剛也が今まで見たAVには…

剛也 無い、無いよあんなの。

かおり ……そうなんだ。

剛也 うん。

かおり ……ふーん。

剛也 かおり。

かおり なあに？

剛也 ごめんやっぱ俺無理だ！ この結婚無理だ！

かおり ええ！

剛也 やっぱ嫉妬しちゃうもん、お前の過去が気になっちゃうもん。

かおり つい今さっき「いつか自信もてるように頑張るから、昔の男に嫉妬しないデカイ男になるから」って言ったばかりじゃない。

剛也 うんうんうん、だからいつかはね。でも今は無理だ。今はまだ嫉妬もするし小さい男のままいたい。

かおり ちよつと！

剛也 なんかごめんね、男の俺がこんなマリッジブルーみたいな感じになって。でもホント無理なんだ。しばらく時間を頂戴。

かおり ちよつと、どこ行くの！

剛也 ……個室ビデオ。

剛也、いなくなる。

かおり 剛也！ 剛也！

静寂

かおり 剛也は出て行った。幸いなことに婚約破棄ということにはならなかったけれど「しばらく時間が欲しい」そうだ。…どうしよう。経験から言えば「しばらく時間が欲しい」「しばらく会うのやめよう」がホントにしばらくだった試しがない。この場合のしばらくとは永遠のことだ。辞書には「少しの間」って書いてあるのに。…どうしよう。剛也を失いたくない。剛也を失いたくないし、ギリギリだけど二十代で結婚したっていうライセンスも欲しい。どうしてこんなことに…そうだと、shit and Lobsterだ。Shit and lobsterのせいでこんなことになったんだ。剛也が言うには、あのshit and lobsterは相当凄いのらしい。私にはわからない。比較のしようがないからだ。女性同士でそういう話をするにはあるけど、そこまで具体的にではない。いや、嘘だ。具体的ではあるけれど、あくまで会話で成り立っているんで、会話からイメージを膨らませるしかないのだ。男性はAVを観たりで、視覚情報として色々なことを知っているのだろう。今回の一件で一つわかったことは、どうやら男性とはいう生き物は女性が想像する以上にAVを見ているのだということ。剛也は週2と言っていたが、多少のサバはよんで、実際のところは週5か週8だろう。悔しい。そんなの観るなら私とすればいいのに。…shit and lobster。剛也との関係を修復する為にはそこ向き合わなければいけないのだろう。私は、私にshit and lobsterを教えたかつてに恋人に会いに行くことにした。

服部（右近良之）と麻里（田所あずさ）の親子が向かい合っている。

麻里 お父さん。

服部 ん。

麻里 も今日で十九歳になりました。

服部 ん、おめでとう。

麻里 も大人の仲間入りです。

服部 ん。

麻里 今まで育ててくれて、本当にありがとうございました。

服部 （もう泣きそう）

麻里 お母さんが亡くなってから男手ひとつ私のことを…ほんとに本当にありがとうございましたねお父さん。

服部 （なんかもう変な声とか出てる）

麻里 …お父さん。

服部 麻里。

麻里 はい。

服部 いや麻里。

麻里 はい。

服部 大きくなったなあ。

麻里 はい。

服部 幾つになった？

麻里 十九歳だよお父さん、さっきも言ったよ。

服部 そうか、もう大人の仲間入りだな。

麻里 うん大人の仲間入り、それもさっき言ったよお父さん。

服部 お母さんが亡くなってから男手ひとつでお前を育ててきて

麻里 そうだねお父さん、結局全部言うんだねお父さん。

服部 こうしてお前が家を出て行く日がくるなんて…

麻里 聞いてないよお父さん。私はまだまだ実家にバラサイトするつもりだよ。

服部 麻里！

麻里 はい。

服部 あの…味噌汁の…作り方は…書いてい（なんかもうデタラメに漏れ叫ぶ）

麻里 お父さん、書くよ。まだ家も出ないし、完全にお父さんから教わった味噌汁のレシピだけど、お父さんが書けというなら私書くよ。

服部 そうか、そうか。

麻里 …それでね、お父さん。

服部 ん？

麻里 私も大人になったわけだから。

服部 うん。

麻里 あれを教えて欲しいの。

服部 え？

麻里 うん。

服部 あれってまさか。

麻里 うん、*shit and lobster*。

服部 お前…知ってたのか。

麻里 私もいつまでも子供じゃないんだよ、お父さん。

服部 でも、いったいいつ？ どこで？

麻里 まだお母さんが生きていた頃。夜中にね、喉がかわいて、でも一人で台所まで行くのが怖かったからお母さんに一緒に来てもらおうと思って寝室のドアを開けたの。

そしたら…

服部 …見たのか？

麻里 ううん、シルエットだけ。でも、シルエットがえらいことになっていたらから。

服部 シルエットだけか？

麻里 うん。その時は何が起きているのかわからなかったけど、中学生の時に校外学習でシルクドソレイユ観に行った時に気づいたの。我が家の寝室では半端じゃないことが行われていたのだった。正直、シルクドソレイユなんて目じゃなかった。

服部 そうか。でもどうしてあれが*shit and lobster*だったの？

麻里 お母さんにね、聞いたの。「あれはなんだったの？」って。そしたらお母さん「あれは*shit and lobster*というもののなのよ」って教えてくれた。今はまだ教えられないけど大人になったらお父さんが教えてくれるわって。それまでは誰にも言うっちゃダメよって。

服部 民子。

麻里 「いつかあなたが受け継いでね」って。お母さんとの、たった一つの約束なの。

服部 そうだったのか。

麻里 うん。だからお父さん、私にも教えて、*shit and lobster*を。

服部 民子、麻里もそんな年になったよ。何歳に…

麻里 十九歳よ、お父さん。

服部 麻里も大人の仲間入りか。

麻里 仲間入りよ。

服部 男手ひとつで…

麻里 男手ひとつで育てられたの。

服部 麻里。

麻里 はい。

服部 お父さんとお母さんの…その…あれは…一つの素晴らしい完成形だった。

麻里 はい。

服部 アレはな、あの *shit and lobster* は我が家に代々伝わる…それなんだ。

麻里 はい。

服部 遠い遠いご先祖さまから代々受け継がれてきた…それなんだ。

麻里 はい。

服部 お父さんもアレで生まれてきた。おじいちゃんとおばあちゃんのアレで生まれてきたんだぞ。

麻里 その話の流れで言うと私もあれでうまれてきたのね、お父さん。

服部 そうだ。麻里、あれを受け継ぐ覚悟はあるのかい？

麻里 先祖代々受け継がれてきたものを私の代で絶やすわけにはいかない。それにこれはお母さんとのたった一つの約束だから。

服部 わかった。それでは修行を始める。今日からはもはや親子ではない。師匠と弟子の関係だ。なので今日から師匠のことをお父さんと呼びなさい。

麻里 …はい師匠！

服部 …。

麻里 師匠！

服部 ……？へ？

麻里 お父さん。

服部 ん？

服部がいなくなる。

麻里 お父さんは少々ポンコツで若干パンチドランカー気味ですが、ああ見えて歴史のある古武道の達人なのです。こうして私は、母との約束を果たすため、先祖代々受け継がれてきた秘儀を伝授してもらうため、修行生活に入ったのです。

ここは喫茶店。かおりが座っている。

勝巳（加古臨王）がやってくる。

扉を開けるマイムと同時にカランコロンカランというSE。

ただし、カランコロンカランコロンカランコロンカラン…という具合に長い。

当然回収はしない。勝巳が「うん」と頷くぐらい。

勝巳 うい、久しぶり。

かおり おお、久しぶり。

勝巳 なになにないに？ 急に呼び出してくれちゃって。

かおり うん、ちよつとね。

勝巳 あ、すいませーん。

店員（飯野雅彦）を呼ぶ。

店員 いらっしやいまほ。

勝巳 何にする？

かおり あ、じゃあ私、アイスモーヒー。

店員 アイスコーヒーがお一つ。

勝巳 じゃあ俺は欧陽菲菲。

店員 アイスコーヒーがお二つで。少々お待ち下さい。

店員消える。

勝巳 それで？

かおり うん。あ、そうそう、最初に言っておかなくちゃいけないのはね、私、今度結婚
することになったの。

勝巳 知ってるよ。

かおり なんで？

勝巳 フェイスブック見てるから。

かおり あ、そっか。

勝巳 おめでとう。

かおり ありがとう。

勝巳 それで？

かおり うん、それでね…うーん、なんて切り出したらいいんだろ。

勝巳 わかった。わかったって、俺が悪かった。

かおり え？

勝巳 俺もわかってて聞いたから。いじわるしてごめん。

かおり は？

勝巳 つまりは、そういうことでしょ？

かおり え？

勝巳 だから、つまりは、そういうことなんでしょ？

かおり …ごめん、全然察しが悪くて、勝巳が何のことを言ってるのか全然…

勝巳 だあかあらあ、そういうことなんでしょ？ 結婚間際に元彼の俺に連絡とってくるってことはそういうことなんでしょ？ むしろそれしかないでしょ。

かおり え、あの、勝巳、ちよつと誤解…

勝巳 わかった！ 女のお前にそんなこと言わせちゃいけないよな。(手を掴んで)行こ。

かおり ちよちよちよちよ、待って！ 勝巳、とんでもない誤解してる。

勝巳 なになにないに？ ここまできて今更なに？

かおり 違うの、勝巳に連絡したのはそういうことが目的なわけじゃないの。

勝巳 そういうこと？

かおり うん。

勝巳 そういうことってどういうこと？

かおり だから、そういうことでしょ？ 勝巳が想像してるのはそういうことなんですよ？

勝巳 …ジエンガだよ。

かおり え？

勝巳 俺が想像してるのはジエンガだよ。

かおり え、うそ…

勝巳 だからあ！ この近くに二人つきりでジエンガが出来るところがあるんだ。三時間
四千五百円なんだ。だから行こう！（手を掴む）

かおり ちよつと、やめてって、やめてってば！

かおりが手をふりほどくと勝巳が這いつくばる格好になる。

かおり どうしたの勝巳？ なんか変わった。昔はそんなんじゃないよ。誘うにして

ももつとスマートに…

勝巳 …二年ですよ。

かおり え？

勝巳 もう二年もしてないんですよ。

かおり (ちよっと考えて) ジェンガを？

勝巳 (頷く) 結婚して子供が生まれたのは知ってるだろ？

かおり うん。

勝巳 うちの嫁ってば、子供が生まれてからはそっちにかかりっきりで全然俺のこと相手してくれなくなっちゃって。

かおり それは俗にいう、レスってこと？

勝巳 (頷く) 俺が、その、ジェンガ欲が物凄く強いのは知ってるだろ？

かおり うん。それが辛くて別れたみたいなどころもあるから。

勝巳 なのに嫁ってば、全然。(激しく落ち込む)

かおり ……だったら、こんなこと言うのもなんだけど風俗とか…

勝巳 お小遣い制ですから！ お小遣い制の俺にそんなところ行く余裕ありませんから！

かおり なんか、ごめん。 ん？ 今の私、謝る必要あった？

勝巳 ただでさえ金がないのに、浮気なんでもってのほか…学生の頃は良かったなあ！
金なんてなくても幾らでもジェンガ出来たのに！

かおり ……勝巳。

勝巳 だから頼む、かおり！ やらせてくれ！(土下座)

かおり (周囲を気にする) ちよっと、人が見てるから！

勝巳 ジェンガやらせてくれろ！ お願いだからやらせてくれろ！(スーパー土下座)
かおり ちよ、もう、なんなの！ 最低！

かおりが出て行く。

普通のカラコンコロン。

剛也がひよっこり顔を出し、かおりが去って行った方角を確認。店内に入ってきて、かおりが座っていた席に座る。

剛也 表をあげい。

勝巳 え？ あんた誰？

剛也 これからかおりの亭主になろうとしている男、つまりはかおりの婚約者の山田です。

勝巳 山田さん。かおりの婚約者がなぜここに？

剛也 詳細は省きますが簡潔に言いますと尾行です。僕はこれから妻になろうとしているかおりを尾行してここまで来ました。御存知ですか？ 警察では尾行とは呼ばず

本当は追尾と呼びます。ドラマとかのあれは嘘です。

勝巳 知らなかった。で？

剛也が物凄くイライラしている。

勝巳 ひよっとしてイライラしてます？

剛也 ええ、物凄く。アンタがかおりの元彼ですか。

勝巳 まあ、はい。

剛也 ということは、アンタが、今よりも若いかおりと、その、なんつーかその、営んでた男というわけですか。

勝巳 …はい、営んでました。

剛也 …わかりますか？ 僕の今の感情。僕が張飛ならあなたの首は既にとんでますよ。僕が関羽でも同じです！ ましてや僕が呂布だったら！

勝巳 だいたい！ だいたいわかります。だいたいですが。

剛也 ほお、わかるとおっしゃる。

勝巳 僕も男ですから、元彼に対する今彼の感情はわかるつもりです。

剛也 …ふん。まあ、結局のところは、かおりはあなたと別れ、僕を選んだわけですから…かおりの中では、かおりという名の宇宙の中では！（接続台詞）

勝巳 はい。

剛也 僕の方があなたよりウェイトが大きい存在なわけですから！ だからまあ、いいっちゃいいんですけどね。

勝巳 ごもつともです。

剛也 勝巳さんとおっしゃいましたね。

勝巳 なぜ僕の名前を？

剛也 簡単です。今日ここで会うとかおりのフェイスブックでのやりとりを見たからです。

勝巳 なるほど。え、でも、かおりとはメッセージで連絡をとったから他人からは見えなはずじゃ…

剛也 答えは簡単。僕がかおりのアカウントにログインして読んだからです。当然かおりには内緒でね。

勝巳 でもパスワードがあるでしょう？

剛也 聞きだす方法があるんです。

勝巳 かおりに知られずに？

剛也 ええ。

勝巳 教えて下さい！

剛也 え？

勝巳 俺、なんというかその、レスなんです。もう二年もさせてもらってないんです！
こんなの絶対おかしい！ うちのやつ、きつと浮気してるに違いないんです！ だ
いたい見当もついてるんだ、佐川急便の配達のアイツか、クロネコヤマトの配達の
アイツと出来てやがるんだ！ だからその、パスワードを見破る方法を教えて下さ
い…後生ですから。(土下座)

剛也 (立ち上がり見下げる) 私に頼みごとしようというわけですね？

勝巳 はい。

剛也 かつおりの元彼のあなたがかつおりの今彼の私の軍門に下るというわけですね？

勝巳 はい。

剛也 じゃあ言え！ 君がかつてつきあってあーだこーだしていた昔のかおりよりも今
のかおりの方が綺麗だと！

勝巳 今のかおりの方が綺麗です！

剛也 …なるほどわかりました。それでは特別にお教えいたしましょう。

勝巳 ありがとうございます！

いつものまにかかおりにいる。マグカップにココアか何か入れてスプーンでかき回してふ
ーふうしながら飲んでる。

剛也はパソコンをいじっているマイム。

剛也 あれー、おつかしいな。

かつおり どうしたの？

剛也 あ、いや、でも…あーやっぱダメだ、またやった。

かつおり 何よ。

剛也 ホットメールのログインパスワード、わかんなくなっちゃった。

かつおり えー、それ仕事で使うんですよ？ 大丈夫なの？

剛也 大丈夫ではないね。どうしょ。

かつおり なんてわかりやすいパスワードにしておかないの？

剛也 いや〜

かつおり せめてメモをとっておくとか。

剛也 (笑) とってる？ メモなんて。

かつおり とってないけど。

剛也 それにメモ残しててそれ見られたらアウトじゃん。

かつおり そうだけど。だったら覚えやすいパスワードにしておけば良かったじゃん。

剛也 そうなんだけども…いや、実はさ、前に誕生日をパスワードにしてたらアカウント乗っ取られちゃったことがあってさ。

かおり ホントに？ でも駄目だよ誕生日はすぐにわかっちゃうもん。え、それ大丈夫だったの？

剛也 早めに気づいたからアカウントそのものを削除したから、なんとかね。

かおり 怖あ。最近もそんな事件あったもんねえ。

剛也 うん、だからその時の恐怖があるからパスワード作るとなると複雑なのにしちゃうんだよねえ。

かおり なるほどねえ。でもそれで忘れちゃってるんじゃないかねえ。(いちや)

剛也 なんか無いかなあ、他人に気づかれなくて、自分で覚えやすいパスワード。あ、お前どんなふうにしてんの？

かおり 私は自分のイニシャルと、お母さんの誕生日。自分の誕生日だと怖いから。

剛也 あ、なるほどなあ、それなら覚えやすいや、おふくろの誕生日は流石の俺も忘れないもん。それ頂き、俺もそうするわ、かおり、ありがとう。

かおり ううん、お役立てて何より。お仕事頑張ってるね。

かおり、いなくなる。

剛也 イニシャルと、母親の誕生日ね、それ頂き。(急変及び入力) 橋本！ かおり！ H

K！ お母さんは橋本スミ子！ 誕生日は五月二日！ HK！0502！ ログイン成功！（戻る。勝巳に）わかりましたか？ こうやって聞き出すんです。

勝巳 すげえ！ 山田さん、お仕事は探偵か何かですか？

剛也 旋盤工です。

勝巳 だからかあ！ 山田さん、早速それ、使わせて頂きます。

剛也 ポイントは、力まずに、あくまで自分の問題に引きつけることです。

勝巳 ありがとうございます。

剛也 いいえ。

勝巳 (イメージしている)

剛也 …。

勝巳 あれ？

剛也 ええ。

勝巳 そう言えば、我々はなんでここにいたんですか？ そういやかおりもいつのまにかいないし。そもそもかおりはなんのために俺を呼びだしたんだろ？

剛也 それなんです勝巳さん。

勝巳 はい。

剛也 あなたにお聞きしたいことがございましてですね。

勝巳 はあ。

剛也 おそらくかおりの目的もそれだったのだと思うのですが。

勝巳 なんでも聞いて下さい。(両手で剛也の手を握り) 僕はもう山田さんのことを実の兄だと思ってますから。

剛也 …やめて下さい、兄だとは思わなくて言い出す。

勝巳 兄、ダメですか？

剛也 はい。

勝巳 じゃあ、僕は山田さんのことを実の従弟だと…

剛也 …じゃあまあそれくらいなら。

勝巳 はい。それで、聞きたいことというのは？

剛也 あの *shit and lobster* のことなんですが。

勝巳 は？

剛也 ええ。

勝巳 まさか、しました？

剛也 はい。

勝巳 …すぐなかったですか？

剛也 正直、はい。

勝巳 そうでしょう。あれ、ありえないでしょう。

剛也 はい。実は私、まだあれを一度しか経験してないんですけど、その時は失神しちゃって。

勝巳 ああ、はい、最初のうちはそうです。

剛也 そのうち慣れるもんなんですか？

勝巳 慣れるというよりは、失神はしなくなります。そしてより凄いとるところに到達します。

剛也 え！ あれより先があるんですか？

勝巳 はい。

剛也 信じられないな、あれより先があるなんて。

勝巳 なんとというか、まあ、あえて言葉にするなら、地面とかなくなる感じですよ。

剛也 地面が？ なくなる？

勝巳 そう、地面とか、壁とか天井とか、そういうものがなくなる感じですね。上下左右の概念がなくなる。

剛也 上下左右の概念がなくなる？ そんなに凄いですか？

勝巳 はい。

剛也 …。

勝巳 ？

剛也 あの。

勝巳 はい。

剛也 あれを、かおりに教えたのは勝巳さんなわけですよ。

勝巳 …はい。

剛也 やはりそうですか。

勝巳 お気持ちはお察しします。

剛也 え？

勝巳 あれをね、shit and lobster をされたら、確かに物凄い快感を得られますけど、女性の側からそれをされた場合、男の方は引いてしまいますよね。いったい俺の前にどんな男とつきあってたんだって。…だから、僕はかおりにもあんな嘘を。

剛也 嘘？

勝巳 一年に一回しか出来ないって言ってませんでしたか？

剛也 言っていました。え、あれ、嘘なんですか？

勝巳 はい。あれはやろうと思えばいつだって、何回だって出来ます。

剛也 そうなんですか？ なんてそんなウソを。

勝巳 先ほど申しました通り、自分の次に付き合う相手を引かせないためです。年に一回しか出来ない、それも、偶然を装ってshit and lobster になだれこまなければならぬ。かおりにはそう伝えました。実を言うとね、僕自身、あれが理由で前の彼女と別れてるんですよ。僕にshit and lobster を教えてくれた彼女とね。

剛也 え、待って下さい。Shit and lobster は勝巳さんが開発したわけじゃないんですか？まさか。僕も教わったんです。そして僕はその彼女に問いたりました。「いったいこんなのどこで覚えてきたんだ、どんな男とつきあってたんだ」ってね。愛してましたからね。それこそ嫉妬に狂ったわけですよ。

剛也 僕と、同じだ。

勝巳 shit and lobster のshitはその嫉妬からきてるんじゃないかとも言われているんです。

剛也 でもshit っつ。

勝巳 ええ、日本語で言えばクソです。きっと元々は関係なかったんだとは思いますが。

剛也 そうか。勝巳さんはむしろ、次に付き合う誰かのため、いや僕のために、嘘をついていてくれたんだ。

勝巳 僕と同じ思いをして欲しくなかったですから。

剛也 勝巳さん。

勝巳 山田さん。

剛也 いえ、剛也って呼んでください。僕もこれからあなたのことを、徒弟だと思ってつきあっていきたいと思います。

勝巳 剛也さん、ありがとう。

固い握手のあと、互いにshit and lobster を思い出してニヤニヤしてる。

勝巳 (引き息) なんか、shit and lobster のこと思いついたらムシムシしてきたなあ。

剛也 ああ、レスだって言ってみましたもんねえ。

勝巳 個室ビデオにでも行くのかなあ。

剛也 あれ？ 勝巳さんも行きます？ 個室ビデオ。

勝巳 なんやかんやで行っちゃいますねえ。剛也さんも？

剛也 はい。週2ペースで。

勝巳 あー、子供出来たら行く回数増えますよ。

剛也 マジですか？

勝巳 奥さんが子供にかかりつきになるでしょ？ ただでさえかまってもらえないのに子供が大きくなってきたらどんどん居場所なくなってきましたから。

剛也 あーなるほど。

勝巳 若い頃はねえ、個室ビデオなんて誰が利用してるんだろうって不思議でしょうがなかったですけどねえ。

剛也 今やねえ、金太郎や宝島がオアシスですからねえ。

勝巳 ですねえ…あ、そうそう、shit and lobster なんですけど、あれ、反対になったら効果は逆になりますからね。

剛也 え？ 効果が逆？

勝巳 女性の方が…っていうことで。

剛也 あ、そんなんですか？ いいこと聞いた。今度そうしてみます。え、でも反対って…

勝巳 こうなってるのをこうです (マイム)。

剛也 あ、なるほど。え、でもそうなった場合って女性は大変なことになるんじゃないですか？ だってほら、女性の場合は男の何十倍って言うじゃないですか。

勝巳 それはもう。まあ、僕も女性じゃないんで具体的なところはわからないですけど。

剛也 まー確かに。えー、あれの何十倍ってどんな感じなんだろう。

想像の時間。

剛也 聞いてみたいですけどね。

勝巳 聞いてみます？

剛也 どうやって？ そういう話って女性はあんまり話したくないじゃないですか。

勝巳 女性同士なら話すんじゃないですか。

剛也 まあ、そりゃあそうかもしれませんが。えーでも、女性同士の下ネタは聞くに堪えないって言うじゃないですか。

勝巳 まあでも、物は試しですよ、聞いてみましょうよ。

剛也 ええ、でもどうやって？

勝巳 (奥を見て) あるんじゃないかな、ここ喫茶店だし。(店員を見つけ) あ、すいません。

店員 はい、なんでしょう。

勝巳 あの、女性同士の下ネタってありますか？

店員 ございますよ。あ、ですが、ただいまですと相席になってしまいますがよろしいですか？

勝巳 かまいませんよ。

店員 かしこまりました。(厨房に) 女性同士の下ネタ入りましたー。

奥から野郎達の「喜んでー」の声。

女性陣が入ってきたながら。「ふーん、なるほどねえ」「ここ空いてるからここにしましよー」等々の会話が繰り返り広げられつつ。

男性陣もそれを取り囲むように談笑しながら座る。

女性陣それぞれが店員に注文を告げる。

店員 注文を繰り返します。全員飲み物、以上でよろしいですか？

女性たちの返事。

店員が合図をするとゴングが鳴る。

木並 指の長さのアレの長さって一緒だっって言いません？(男一人死ぬ)

絵美 そうなんですか？

悠 でも羽賀研二は25センチだっていうわよ(反応) 有名な話よ、単位にもなってるくらいよ1ケンジは25センチ。

あずさ はがけんじって誰ですか？

悠 あーまだ十代だもんね、知らないわよね、ごめんねおばちゃん。

木並 え、でもぶっちゃけさ。

あいか きたぶっちゃけトーク。

木並 ぶっちゃけ順位はつけるでしょ？

絵美 それはようするに上手いとか下手とかそういう？

木並 そう。

亜弥 つけるね。

悠 まあ、つけてしまいますね。

あいか うん。

絵美 あーでも私は順位をつけるほど経験が。

悠 ぶっちゃけさ、みんな経験人数何人？（反応）あーでもこれ言いだしっぺの私が最初に答えるべきよね。一番年上だしね、私はね、そんなに多くないの五人よ（反応）オフシャルではね（反応）

亜弥 アンオフイもあるからね。

あずさ どういう意味ですか？

木並 つきあった人数と、そういう関係になった人数はイコールではないってこと。

あずさ なるほど。勉強になります。

悠 ちなみに、どうなの、そちらは？

あずさ まだちゅーもしたことありません。

男も女ももだえる。

悠 かわいいー！ 大事にしなさいね。

あずさ でも、二十歳過ぎても経験が無いと消されるんじゃないですか？

悠 大丈夫、きっと消されはしないわ。

絵美 すいません、私まだ上手い下手のところまで止まってるんですけど。（反応）上手い下手って具体的にどういうことを言うんですか？

木並 アンアンとか読んでないの？

絵美 読んでないです。

悠 アンアンはもはやエロ本でしょう。逆に買うのが恥ずかしいわ。

木並 そう？ 私普通にコンビニで買っちゃいますけど、アン、アンって感じで。

絵美 なるほど、アンアン。

木並 まあ、でも、あんなの読まなくても下手なのはすぐわかるけどね。

絵美 例えば？

木並 例えば、力任せにぐいぐい押ししてくるタイプ？（反応）

亜弥 パワーウオリアーね。

あいか やたらと持ち上げようとする人いませんか？（反応）

亜弥 ホークウオリアーだ。

悠 あら、他にはどんなのがあるの？

亜弥 何も考えずにケモノのように攻めてくるがアニマルウオリアーで、色々考えすぎちゃって結果普通ってのがアルティメットウオリアー（反応）

絵美 そういふのがあるんですね。

あいか 初めてっていつだった？

木並 私15歳、当時バイトしてたガストの店長（反応）

あずさ どんな感じだったんですか？

木並 早く終われって思ってたよ。今考えてみればもったいないことしたね、大事に使えば良かった。はい、てなわけで私の初体験は十五の夜、みんなは？

あいか じゃあ、その流れで言ったら私は17歳の地図？（反応）

悠 ちよつとなに？ その流れ。じゃあ私はちよつと遅いけどSWEET19BLU ES？ ごめんなさいね、尾崎豊の流れに乗れなくて、安室ちゃんで。（反応）

絵美 で、あの上手い下手の話なんですが…

木並 結構気にするねえ、それ。

悠 わかったわ、私が上手い下手をJ Rに例えて教えてあげる。

絵美 J R？

悠 （体を大の字に）良い？ 私の体を山手線と思いなさい。（唇を指し）まずはここ、唇よ。ここは駒込なの。

絵美 駒込ですか？

悠 そう。全てはキスから始まるわ。駒込から始まり駒込に終わると言っても過言ではないわ。（反応）そして右手、これが新宿。左手が秋葉原。もうわかるわね、私たち女性にとって一番大事な場所、それは…

あずさ 品川ですね！

悠 そう品川！（反応）そう、そして私の右手と左手の間には中央線が走ってるの見える？

あずさ 見えます！

悠 水道橋と信濃町が見える？

あずさ （左胸を指し）水道橋で（右胸を指し）信濃町ですね？

悠 大正解！ いい？ 下手な男というのはね、駒込から乗車してすぐに水道橋や信濃町に行こうとする。見てごらんなさい、直通の線路なんて走ってないでしょ？

木並 乗り換えが必要だね。

悠 それなのにすぐ水道橋信濃町に向かうのよ。水道橋信濃町水道橋信濃町と行ったり来たり。

木並 最低だね。

悠 そして飽きるほど行ったり来たりしたら…もう品川！（反応）いいこと、これが下手な男よ。（喝采）

絵美 じゃあ逆に上手い人ってというのは？

亜弥 僭越ながら私が…

亜弥が悠の体を使って説明を始める。

亜弥 まず駒込に始まり…駒込にゆっくり滞在する…永遠に停車するくらいに…そして

(右首筋) 池袋方面に向かう…(首筋から肩のラインを責め) 巣鴨…大塚…池袋…
目白…高田馬場…新大久保! 馬鹿な男はね、新宿を乗り換え駅だと思っ
ない、ここからすぐに信濃町に向かおうとする…でもね…重要なのは新宿!(手)
新宿にはゆっくり滞在しましょう…見どころはいっぱいあるから…新宿御苑…歌
舞伎町…二丁目都庁ビル!

絵美 それから、それから何処へ向かうんですか!

亜弥 何処へ向かうと思う?

あいか まさか…

亜弥 そう、そのまさか…なんとここで引き返すの!(反応) 内回りから外回りに!(反
応) 重要なのは引き返す勇氣。また駒込までゆっくり戻り…日暮里を経由して秋葉
原!(反応)

絵美 そしていよいよ水道橋ですか?

亜弥 (首を振り) 覚えておいて、「中央線にはいつでも乗れる」(足をなでながら) 有
楽町…新橋…浜松町…田町と来て(反応) ここで意外性の蒲田!

絵美 まさかの京浜東北線だ!

木並 やるねえ。あえて品川は素通りするわけだ。

亜弥 「品川は 遠くを指す ための駅」

あずさ 芭蕉ですね。

亜弥 馬鹿な男はね、蒲田や武蔵小杉を疎かにするの。

あずさ 勉強になります。

悠 あーもうなんだか私飲みたくなってきちゃった。

絵美 いいですねえ。

あいか 行きますか?

木並 私酒入ると上半身の話一切なくなるけど平気?

悠 のぞむところよ。

等々、女性陣わいわい消える。

男たちは以上のやりとりの間にそれぞれのタイミングで死んで行く。右近さんだけ腕組
みをしながら瞬きもせずにいるが、店員が確認すると既に死んでいる。

音楽

暗転

勝巳が一人で立っている。

勝巳 剛也さんから教えてもらった方法で妻からパスワードを聞きだすことに成功した僕は、さっそく妻のフェイスブックやmixiをチェックしました。けど、怪しいやりとりは見つかりませんでした。念のため、携帯もチェックしてみたのですが、浮気の証拠になるようなメールのやり取りも残されていませんでした。そもそも、妻の携帯にはロックすらかけられていなかったのです。僕は悩みました。個室ビデオで悩みました。そして、こうなったらもう妻に直接聞いてみようと決意したのです。そして妻に聞きました。「お前、浮気してるだろ」と。…ぶっ飛ばされました。僕は逃げました。個室ビデオに逃げました。そして考えました。妻に直接聞いてもぶっ飛ばされるだけなので、浮気相手と思われる佐川急便の兄ちゃんに直接聞いてやろうと。僕は彼をまぢぶせしました。そして聞きました。「お前、うちのかみさんと浮気してるだろ」と。…ぶっ飛ばされました。ぶっ飛ばされて気絶しました。目が覚めるとそこは個室ビデオでした。僕は諦めず、もう一人の浮気相手と思われるクロネコヤマトの兄ちゃんにも詰め寄りました。当然ぶっ飛ばされました。「俺は面喰いだ」とまで言われました。僕は泣きました。個室ビデオに泣きました。妻を侮辱されたのが悔しくてぬきじやくりました。…家に帰り、僕は妻に全てを話しました。浮気を疑ったこと。パソコンや携帯を勝手に覗いたこと。かまってくれなくて寂しいということ。妻は怒ったり泣いたり、色々な感情を見せてくれました。考えてみれば、妻の色んな表情を見るのは久しぶりでした。妻と話していくうちに、妻の浮気を疑ったのは寂しさからの被害妄想だったのだと気がつきました。そしてその夜、二年ぶりに、しました。Shit and lobsterを。照れ隠しに「二人目を作ろうか」なんて言って誘ってみたけど、あれはもう、なんというか、素晴らしいそれでした。そして翌日、僕は迷いました。職安に行くか、個室ビデオに行くかで迷いました。でも僕が選んだのは第三の選択、僕にshit and lobsterを教えてくれた元カノに会いに行く、というものでした。

勝巳が誰かを待っている。

直美（田端亜弥）がやってくる。周囲を気にしてから勝巳の姿を見つけ、安堵した表情で勝巳の対面に座る。

直美 久しぶり。

勝巳 久しぶり。あのさ、急に呼び出してごめんね。あの、これは始めに言っておきたいんだけど、俺達のはほら昔つきあってたわけじゃん？ 元カノ元彼の関係っていうの？ でもね、俺はほら、直美のことを、俗に言うそういうつもりで呼び出した

わけじゃないってことを、まずわかって欲しいんだよね。

直美 うん、わかってる。

勝巳 え？ 本当に？ それは良かった。

万感の思いを込めたような直美の表情に戸惑う勝巳。直美は涙すら浮かべている。

勝巳 どうしたの？

直美 ううん、嬉しくて。

勝巳 俺と会えるのが？ あ、そう。あれ、どうしよ、さっき言ったの取り消そうかな。

いやいやいかにいかに。去れ！ 俺の脳から「あわよくば」と、去れ！

直美 どうしたの？

勝巳 いやいや、なんでもない。実はね、今日は直美に直接お礼が言いたくて来てもらったんだ。

直美 うん、それもわかってる。

勝巳 ホントに？ あ、そう。じゃあ改めて…直美、君のおかげで個室ビデオを卒業できそうだし！ ありがとう。

直美 …。

勝巳 どした？

直美 想像してたのとはちょっと違ったかな。

勝巳 ？

直美 shit and lobsterの…とかと思ったから。

勝巳 そう！ それ！ それなの！ おかげで夫婦円満なの！ ありがとう！

直美 完成したんだね、おめでとう。

勝巳 完成？

直美 shit and lobsterはね、本当に愛し合ったもの同士じゃないと完成しないの。

勝巳 そうなんだ。でも確かに昨日のは凄かったもんな。気がついたら家じゅうの観葉植物の花が開いたもんな。

直美 よかったね。奥さん幸せにしてあげてね。

勝巳 おお。直美は？ 結婚とかはまだなの？ 付き合ってる人は？

直美 …今は…なんか…フラフラしてる。

勝巳 へー。

直美 付き合ってるふうの人は何人かいるけどね。

勝巳 おー大人あ。

直美 …そんなんじや。

勝巳 ？

直美 …実はね…結婚を考えてた人がいたんだけどね……死んじゃったんだ。

勝巳 そうなんだ。

直美 うん。

勝巳 直美ごめん、こういうときになんて言ったらいいか。

直美 ううん、いいの。

勝巳 そか。

直美 それで？

勝巳 ん？

直美 聞きたいんじゃないの？ *Shit and lobster* のこと。

勝巳 なんでわかんのか？

直美 元カノだから？

勝巳 おー何これー今なんかキュンとしたぞー。

直美 (笑)

沈黙。

直美の表情が変わっている。

直美 勝巳。

勝巳 ん？

直美 今から私が言うこと、信じなくても良いからね。

勝巳 え？

直美 (遠くを見つめている) 遠い遠い昔のお話ね。あるところに日本という国がありました。

勝巳 え、ちよつと、直美、何言ってるの？

直美 最後まで聞いて。

勝巳 あ、ごめん。

直美 日本という国がありました。

勝巳 ありました。

直美 その国はとても豊かな国でした。とても豊かで、人々は温厚で、国中の夫婦は仲睦まじく暮らしていました。

勝巳 うん。

直美 ある時、その国に外国から船がやってきました。その船には宗教家たちが乗っていました。宗教家達はその国に自分の信じる宗教を広めるが目的で遠い異国からやってきたのです。宗教家達は大名に取り入ったり、民衆に溶け込んだりしながら布教につとめました。シルクロードの東の果てに位置する島国であるその国は、元々多くの人種、文化を受け入れて成長してきたので、新しい宗教もすんなり受け入れ

ました。宗教家達には別の目的があるとも知らずに。

勝巳 うん。

直美 ある日、宗教家達の一人があるものを目撃してしまいました。彼は恐れおののきました。彼は仲間を呼び、みんなでその行為をのぞき見したのです。全員恐怖に打ち震えました。中にはショック死してしまうものまで現れました。それは、その国の人々の間ではごくごく一般的で誰でもしていることだったのですが、宗教家達にとっては全く理解できないことだったのです。彼らは急いで祖国に手紙を書きました。「この極東の島国を即座に制服するべし」と。そう、彼らの本来の目的は、宗教を入り口にして民衆を手なづけ扇動し、最終的には祖国からの軍力で制服しこの国を植民地にするつもりだったのです。

勝巳 ええ！

直美 宗教家は手紙にこうも書いたのです。「この国の人々は男女を問わず王から民衆まで、全ての者が恐ろしい能力を身につけている。この国がもし外に目を向け、海を渡ることになれば、全ての国の女はこの国の男たちの虜になり、全ての国の男たちはこの国の女の虜になるであろう」と。

勝巳 まさか

直美 宗教家は手紙の最後にこう書いたの。「我々はその能力を *shit and lobster* と名付けた」と。

勝巳 マジで？

直美 信じるか信じないかはあなたしだいよ。

勝巳 大好きそのフレーズ！ それで、それからどうなったの？

直美 それからね…

入口の辺りでサングラスに黒いスーツの不審な男トミー（熊倉功）が直美を発見する。トランシーバーで誰かを呼び出す。直美はそれに気づきメモを渡す。

直美 ここに書かれている番号に連絡して、全てを教えてくれるから。

勝巳 え？ ちょ。

直美 …これでようやく私もあの人のところへ行ける。

勝巳 直美、どうしたの？

黒服が一人増える。ウイル（藤枝直之）。直美に近寄ってくる。

直美 勝巳、それじゃあね。（急に立ち上がり）この豚野郎！ ママのおケツにキッスしな！（ビンタ）

勝巳 あ痛あ！

直美が出て行く。

トミーが直美の後を追う。

ウィルは残って勝巳を見るが遅れて直美を追う。

勝巳 なんなんだよ、いったい。

入れ替わりで剛也が入ってくる。

ここは剛也の家。

勝巳 というわけなんだよ。

剛也 ふーん。

沈黙

勝巳 あのさ。

剛也 うん。

勝巳 shit and lobster じゃ。

剛也 うん。

勝巳 ……体位だよね？

剛也 (割と長い思考) うん、体位だね。

勝巳 だよねだよね。

剛也 うん。

勝巳 ……俺の身に何が起きたの？

剛也 とりあえずはつきりしてるのは……元カノにビンタされた？

勝巳 うん。

剛也 (メモを受け取って) しかし妙な話だなあ。

勝巳 ねえ。

剛也 ……でも。

勝巳 え？

剛也 幾つか理解できる点もある。

勝巳 マジで？

剛也 うん。彼女が話していた物語？ あれってキリスト教の伝来のことだろ？

勝巳 そうなの？

剛也 習ったじゃん、中学の時に。

勝巳 ひよっとして直美が言ってた宗教家ってザビエルのこと？

剛也 多分ね。ザビエルとか他にも確か（PCをいじり）あった。ほら。『日本人は全アジアでもっとも有能で良く教育された国民であり、天賦の才能があるから、教育すれば総じて科学を多くのヨーロッパ人以上に覚えるであろう』宣教師の一人が当時の日本人のことをこう書いてる。

勝巳 おお、評価高いじゃん。

剛也 しかもね。『日本人は自分たちの風習や儀礼に深くなじんでいるから、彼らはたとえ世界が破滅しようともその日常の態度なり方式を一片すら棄て去りはせぬであろう。』

勝巳 凄いね、世界が滅亡しようとも、だって。

剛也 当時の日本人は誇り高い民族だったみたいだね。

勝巳 これってどれくらい前のこと？

剛也 450年くらい前。

勝巳 …ずっと前ってことだね。

剛也 まあね。

勝巳 時代で言うとき？

剛也 戦国時代。

勝巳 あー。でもさ、当時はヨーロッパの方が断然強かったわけでしょ？ それこそ鉄砲とかもあったわけだし。それなのに日本人のこと怖がったりするのかな？

剛也 鉄砲が日本に伝わったのは1543年。最初はたったの二丁だった。それが1600年、57年後の関ヶ原の戦いの際にどれくらいの鉄砲が使われたか知ってる？

勝巳 さあ。

剛也 五万丁。

勝巳 へー！

剛也 当時の世界中の鉄砲の数が10万丁って言われてる。

勝巳 じゃあ半分も？

剛也 たった57年で世界の鉄砲保有数の5割を占め、しかも独自の改良で性能は日本製の方が格段に上だったとか。

勝巳 ちよつとやばくない？ 日本人やばくない？

剛也 やばいね。だから当時のヨーロッパの国々、というよりむしろキリスト教の人たちが日本を恐れていたというのは本当だと思う。ただ、shit and lobsterに関しては記録が無いからわかんないなあ。

勝巳 なるほどなあ。

剛也 それにそもそも。

勝巳 ん？

剛也 体位だからなあ。

勝巳 そうなんだよね、体位なんだよねえ。

剛也 (PCを見て) ん？

勝巳 どしたの？

剛也 まさか(リモコンのスイッチを押すマイム)

勝巳 あれ、直美だ。

テレビの音声流れる。

音声 死亡したのは世田谷区に住む松浦直美さん26歳で、警察は飲酒運転による事故の可能性もあるとみて捜査しています。

勝巳 直美が、死んだ？ なんで？ ねえなんぞ！

剛也 …。

勝巳 …直美は酒なんて飲まない。飲めないんだ。

剛也 おかしいよ。

勝巳 なにが！

剛也 交通事故で顔写真が公開されるなんて。

勝巳 え？

剛也 なんかこれ、マジでやばいかもしんない。

雑な女教師（榊木並）がいる。

麻里が座っている。

女教師 なるほどねえ、お父さんに言われてねえ。

麻里 はい。

女教師 先に言っておくけど私はその *shit and lobster* については知らないよ。私が知ってるのはあくまで四十八手だから。

麻里 はい。四十八手というのは *shit and lobster* の元になるものだから、まずは四十八手の全てを頭に叩きこんで来なさいということでした。

女教師 なるほどねえ。

麻里 はい。

女教師 どんなもんならうねえ *shit and lobster* っつ。

麻里 理論上では四十八手が全て同時に行われている状態のことを指すそうです。

女教師 へー、それ気持ちよさそうだねえ。おっけ。じゃあぼちぼち授業を始めようか。

麻里 よろしくお願いします。

金剛力士像のお二人が現れる。

麻里 はい、それでは四十八手の解説を行います。

『時には昔の話を』とか流しながらだと馬鹿馬鹿しくて良いかもしれません。

全ての体位を終えて次のシーンへ。

スペランカーの音が聴こえる。

勝巳がゲームをやっている。

後ろの方で妻の陽子（関森絵美）が子供をあやしている。

チャイムが鳴り陽子が玄関に向かう。

陽子に連れられて剛也が入ってくる。

剛也 ……勝巳君。

勝巳 剛也さん？ いらっしやい。

ゲームをやめない勝巳。

剛也 いつまでスペランカーやってんだ！

コントローラーを奪い取り叩きつける。

スペランカーが死ぬ音。

勝巳 あー死んだ！ 何すんだよ勝巳さん。

剛也 何すんだじゃないだろ、元カノが殺されたんだぞ。

勝巳 ちよつと剛也さん、やめてくれよ、妻の目の前で元カノの話なんて。

陽子 ……。

勝巳 大丈夫大丈夫、なんでもないから。そんな心配そうな顔すんなって。

剛也 あのニュースは絶対におかしかった。あれは彼女を知る誰かへの警告なんだよ。

勝巳 そんなのわかんないじゃん。

剛也 お前は彼女に託されたんだぞ！

勝巳 ……何を？

剛也 ……。

勝巳 だから何を？

剛也 その、メモを。

勝巳 これか。なんなんだろうね、これ。

剛也 だからそれを知るために…

勝巳 嫌だよ！

剛也　なんで？

勝巳　…怖いじゃん。

剛也　…。

勝巳　俺は久しぶりに、本当に久しぶりに直美に会ったんだ。

剛也　shit and lobsterの…話を聞く為に。

勝巳　陽子の前でその話をするのはやめてくれ。顔を赤らめてるじゃないか。

剛也　…ああ。

勝巳　俺と別れた後で直美に何があったのかは知らない。何か事件に巻き込まれていたのかもしれないけど…

剛也　だからその手がかりが、そのメモに書かれた電話番号なんじゃないのか？

勝巳　…。

剛也　これはあくまで俺の仮説だけど、彼女の死にはshit and lobsterが関わっているんじゃないのか。

勝巳　体位だ！　Shit and lobsterは体位なんだ！

剛也　いや！　Shit and lobsterはもはや体位であって体位ではない！

陽子　…。

勝巳　あーごめんごめん、下ネタ苦手だったね。そんな泣きそうな顔すんなって。

チャイムの音が鳴る。

陽子が玄関に向かう。

陽子が戻ってくる。

陽子　…。

勝巳　江藤さん？　知らない。俺に用だった？

陽子　…。

勝巳　まあ、じゃあ上がってもらって。

陽子　…。

陽子が消え、江藤（原田新平）を連れてくる。

江藤　…どうも。

勝巳　あ、どうも。あの、どこかでお会いしたことありましたっけ？

江藤　勝巳さんというのは？

勝巳　あ、僕です。

江藤が勝巳に殴りかかる。

江藤 お前が！ お前が！

剛也が江藤を羽交い絞めにする。

剛也 ちよちよちよ、何があったか知らないが暴力はいけない。

江藤 お前が！ お前が直美を！

剛也 え？ ちよつと、待って。

勝巳 あんた直美の知り合い？

剛也 黙れ！ 殺してやる！ 絶対に殺してやる！

勝巳 なんて俺が殺されなきゃなんないの！

剛也 とぼけやがって！ お前が直美を殺したんだろう！

勝・剛 ええ？

剛也 離せ！ 離せこら！

勝巳 ちよつと待って！ 俺は直美を殺してなんかいない！

江藤 嘘をつくな！ 直美が飲酒運転なんかで死ぬはずがないんだ！ 直美は酒が飲めなかった！ それに直美は免許も持ってなかった！

剛也 陰謀にしては杜撰だな。

江藤 それなのに直美は死んだ！ これは事故でも自殺でもない！ 誰かに殺されたんだ！

勝巳 だとしてもなんで俺が直美を殺さなくちゃいけないんだ！

江藤 直美が最後に会っていたのはお前だってことはわかってるんだ！

勝巳 なんだ！

江藤 直美のフェイスブックをのぞいたら、最後にやりとりしてたのがお前だった！

勝巳 メッセージは他人からは見えないはずだろう！

江藤 パスワードを聞きだす方法があるんだ！

剛也 勝手にのぞいたのか！ この最低野郎が！

江藤 うるさい！ とにかく離せ！

しばらく暴れ叫ぶ江藤。

陽子が江藤を見つめる。

江藤 ……わかったよ。話だけは聞くよ。

剛也 ……。

勝巳 江藤さん、俺は本当に直美を殺してなんかいない。むしろ、直美が死んだって知って驚いてるし…悲しい。

江藤 …。

勝巳 江藤さん、これを。

メモを渡す。

勝巳 直美から託されたメモです。ここに書かれている番号に連絡しろって。全てを覚えてくれるからって。これを渡された時は直美があんなことになるなんて想像もしてませんでした。

江藤 …直美の字だ（静かに涙を流す）

しばしの沈黙。

剛也 …江藤さん、あなたはひよつとして、直美さんの…

江藤 はい、セフレでした。

勝・剛 え？

江藤 …僕たちは深く愛し合っていました。僕たちは互いに強く惹かれあい…言葉にすれば陳腐かもしれないけど、運命の…セフレでした。

勝・剛 え？

江藤 今でも信じられない、直美が死んでしまったなんて。

勝巳 …江藤さん。

江藤 どうしてセフレの僕を残して死んでしまったんだ！

剛也 …あの、江藤さん。その、セフレを失くして、今は辛いかもしれないけど、まだ若いんだし、これからまた運命の人に…

江藤 彼女以上のセフレなんていない！

剛也 ああ、ああ。

江藤 彼女との五年間が僕にとっての全てでした。

勝巳 …時期かぶってんなあ…

江藤 …もう生きていく自信が無い。

陽子が勝巳を見る。

勝巳 え？

陽子 …。

勝巳 でもそれは…

陽子 …。

勝巳 全部お見通しってわけか。

陽子 …。

勝巳 わかったよ。必ず生きて帰って来る。

陽子が江藤を見る。

陽子 …。

江藤 でももう僕には…

陽子 …。

江藤 …確かにおっしゃる通りかもしれませんが。

陽子 …。

江藤 …そうですね、死ぬのは、直美の敵を討ってからでも遅くはないですよ。俺やります！

陽子が剛也を見る。

剛也 …。

勝巳 よし！ 江藤さん、剛也さん、行きましょう。

剛也 どこに？

勝巳 直美の敵を討ちに。

江藤 はい！

剛也 ああ、ああ。(陽子が気になる)

勝巳 まずはこの番号に電話して、それから作戦をたてましょう。

江藤 はい！

勝巳、江藤、剛也の順で出て行く。剛也は陽子が気になりつつも出て行く。

勝巳が戻って来て。

勝巳 陽子、笑顔で送り出してくれてありがとう。

勝巳出て行く。陽子が客席にふりかえる。

暗転。

大学の授業風景。

喜国教授（飯野雅彦）が何やら授業をしている。

飯野雅彦のフリースペース。

チャイムが鳴ると授業が終わる。

そこに勝巳、剛也、江藤がやってくる。

喜国 （空間を見つめている）おや、何か質問ですか？

勝巳 いえ。喜国教授ですか？

喜国 ああ、その声は電話の。

剛也 喜国教授ですよ？ あの、僕、教授の著作、全部持ってます！

喜国 （空間を捕まえようとしている）ああ、そう、うん。

江藤 有名な人なんですか？

剛也 日本最高峰の博物学者だよ。専門は日本史だけど、あらゆる分野に精通してる。

DSにもなってる。

喜国 （空間を捕まえた）ああ、うん、DSになってるね。

勝巳 それでその…

喜国 ああ、みなまで言わない。誰が聞いているかわからないからね。

勝巳 はい。

喜国 空間を捕まえてみるに：彼女のことは残念でしたね。

江藤 （涙をこらえ）はい、彼女は、セフレでした。

喜国 ああ、それは悲しみもひとしおだ。（ティッシュを出し）クリネックスをどうぞ。

江藤 ありがとうございます。

勝巳 教授、直美はなぜ殺されたんですか？

喜国 歴史はお得意ですか？

勝巳 いえ、あまり。

喜国 うん、じゃあ、まあ、わかりやすく説明しましょう。

勝巳 お願いします。

喜国 日本という国は幾つかの転換期がありましたね、今回の一件で関わってくるのは、まあ、キリスト教の伝来の時期からでしょうなあ。

勝巳 例の、ザビエルの話だ。

喜国 ああ、そこについてはもう御存知でしたか。まあ、じゃあ、そこは簡潔に。西洋人がこの国に侵略目的でやってきた。最初はおだやかに宗教を入りにね。そこで

彼ら宣教師はあるものを目撃した。

剛也 *shit and lobster*。

喜国 うん。彼らはそう名付けたようですな。だが、もともとその行為には名前などなかった。なぜなら我々日本人にとっては息を吸うのと同じくらい当たり前の行為だったからです。日本という国は農耕民族です。農耕民族の性行為というのは本来とてもゆっくりとしたものなのです。この国が特殊だったのは、シルクロードという文化の通り道の一番東の果てにあり、世界中の文化が最終的に流れ込んでくる場所であったということ。しかも周りは海に囲まれており外敵に攻められる心配もないので他の国では戦争などで失われてしまった文化が残っていったわけです。そして元々おおらかでおだやかな国民性はその世界中の文化を受け入れて取り入れて、より優れた形に変えて内包していったわけです。それは性行為にも同じことが言える。そこでごくごく自然に生まれたのが：

勝巳 *shid and lobster*。

喜国 ここに来られたということは、みなさんは経験なされたということですか。(返事)
あれ、どうですか？

お好きな反応をどうぞ。

喜国 そうでしょう、そうでしょう。宣教師たちはあれを見て恐怖した。真似をしてみても同じ快感を得ることは出来なかった。答えは簡単です。彼らは日本人ではないからだ。自らのものにならないと知った彼らは、侵略してそれをなくしてしまおうとした。愚かなことですね。その安易な侵略や破壊という発想が、幾つもの文化を失わせ、結果的に *shit and lobster* を得られな肉体になってしまったというのにね。
剛也 *shit and lobster* は幾つかの文化が、こう、ミルフィーユ状に蓄積されて出来上がったものということですか？

喜国 顔がデカイ(お目が高い)その通りです。これはもはや遺伝子に組み込まれていると言って良いでしょう。だから欧米人にはそもそも得られるものではない。話を続けましょう。キリスト教はこの国を恐れ侵略しようとした。しかし、それに気づき、この国を守ろうとした男がいた。徳川家康です。彼は国を閉じることで西洋の宗教的侵略、文化的侵略、軍事的侵略からこの国を守ろうとした。

江藤 鎖国。

喜国 エクセ！ この鎖国政策は成功し260年間続くことになりました。しかし鎖国したことにより国は守れたもののこれまで違うことが起きてしまった。

剛也 そうか、文化が流れ込んでなくなってしまうんだ。

喜国 ザッツライ(ザッツライのポーズ)。それでも江戸時代は性に関してユニークな発展を遂げます。四十八手なんてものが作られたのもこの頃です。そして、夜這い。

江藤 夜這い？ あんまり良い印象ないですけど。

喜国 それは誤解。夜這いにはちゃんとルールがあったのです。

雑な女教師と金剛力士組が現れる。

女教師 それでは夜這いのルールについては私から。まずは二人の出会いです。

藤 あ、良い女発見。あの子タイプだぜ。ほれてまうぜ。

クマ 何あの人、やだー、こっち見てる。めっちゃすきなタイプだわ。あの顔、あの肉体。

女教師 二人は惹かれあっています。ですがここで二人は一度別れます。そしてその夜。

男性の方が女性の家に忍び込んで来ます。玄関の扉は開けられていることが多いです。これは女性が開けてるわけではなく。親御さんが開けているのです。年頃の娘を持つ親は夜這いを受けいれる体制を整えているのです。あ、男性が女性の部屋に忍び込むことに成功しました。

藤 ヘイガール、昼間俺のことみてたよな。俺もお前のこと見てたぜ。

クマ まあ。

女教師 ここですぐことが始まるわけではありません。男性の方は粹なトークが求められます。

藤 (なんかオチっぽい一言下さい)

女教師 これで女性の方が受け入れると。

クマ 素敵(二人抱き合う)

あの曲。

女教師 交渉成立です。二人はともに朝を迎えるわけです。ですが、もし女性の方が男性を気に入らなかつた場合。

クマ わたし、あなたのこと全然タイプじゃなかつたわ。

女教師 男性はすぐごとと引き返さなくてはなりません。ですが中には野暮な男もいて無理矢理関係を迫ろうとする者もいます。その場合…

藤 いいからその上腕二頭筋にキスさせろい！

クマ あーれー！ だーれかー！ たーすけてー！

江藤、勝巳、剛也、女教師で藤をボコボコにする。いつのまにか藤、クマ、女教師が消えている。

喜国 このように無理強いをしようとすると、家の人呼ばれてボコボコにされます。こ

の場合、殺されても文句が言えないのです。

江藤 女性に拒否権があったわけですね。

喜国 その通り。このように男性も女性も多くの異性と関係を持ち、より良いパートナーを探していったのです。

剛也 おおらかだ。今と比べて随分性に関しておおらかだったんだ。

喜国 これが江戸時代のこと。だが、江戸時代は国を閉ざすことで他の文化が入ってこなくなつた。一つには軍事産業。鎖国から260年後、黒船がやってきたときに日本人が持っていた武器は関ヶ原の頃となら変わらない装備しかなかった。

江藤 歴史の流れって難しいものですね。国を閉じなければ滅ぼされていたかもしれないし、閉じたら閉じたで発展が遅れてしまったと。

喜国 鎖国政策はもっと柔軟であるべきだったんです。国を閉ざしながらも西洋の優れた技術などは受け入れるべきだった。積極的にそう主張した人たちもいました。蘭学者と呼ばれる人たちです。しかし彼らの意見は受け入れられず、弾圧されることさえあつた。その結果、黒船の大砲に火縄銃で立ち向かわざるを得なくなつた。

剛也 ちょっと待って下さい。Shit and lobsterの話が、いつのまにか日本の文化、日本人のアイデンティティの話になっていませんか？

喜国 いいところに気がつきましたね。私は、shit and lobsterというのは日本人のアイデンティティそのものだと考えています。

勝巳 体位じゃないんですか？

喜国 体位です。

江藤 体位がアイデンティティなんですか？

喜国 その通り。性行為というのは人間の根源的な欲求であり文化です。これをアイデンティティと言わずして何をアイデンティティと言いましよう。

剛也 ちょっと待って下さいよ。じゃあ、じゃあですよ、今、この現代ではshit and lobsterは物凄くマイナーなものになってますよね？

喜国 我々を含め、一部の人間にしか伝わっていません。

剛也 ということはですよ、日本人のアイデンティティは、既に失われかけてるってことじゃないですか！

喜国 その通りです。

勝巳 なんでそんなことになっちゃったの？

喜国 ではそれについて説明しましょう。黒船がやってきたことにより、日本人はこの国が弱体化していることに気がついたので。今のままでは外国に占領され植民地にされてしまう。260年前の悪夢が再び訪れたのです。外国に勝つ、いや、少なくとも外国に負けないためには早急に近代化を成し遂げなければならなかつた。近代化とはイコール欧米化すること。この改革は成功し、明治十年には一応の完成を見ます。これが明治維新です。大政奉還からほんの十年のことです。

江藤 十年ですか？ 早くないですか？

喜国 世界的に見ても、このような早さで近代化に成功した例はありません。

勝巳 やっぱすっげえ日本人。

喜国 ただし、この改革には多くの犠牲がともなったとも言えます。

剛也 犠牲、ですか？

喜国 欧米化するということは、これまでの日本を否定することにも繋がったからです。

この十年の間には日本人は多くの日本人らしさを自ら捨てた。

勝巳 なんてまた。

喜国 そうしないと改革が進められなかったからです。ある意味では政府主導で強制的に捨てさせられたのです。

江藤 でも、幾ら政府が命令したからってそんな簡単に言うこと聞くもんなんですかね。

喜国 携帯を見せて下さい。

江藤 はい（渡す）

喜国 ガラケーですね、どうしてスマホにしないんですか？

江藤 いや、まあ、そんなに色々な機能使わないし、何よりずっとガラケー使って慣れますから…

喜国 だめ！

江藤 ええ！

喜国 命令！ 今日から全員スマホ！ なぜならそっちの方が優れているから！

江藤 そんな！ 嫌ですよ。

喜国 じゃあ逮捕！

江藤 ええ！ じゃあ、わかりましたよ、スマホにします。

剛・勝 おお！

喜国 明治維新というのはこんなことの連続でした。今日からちよんまげ禁止、今日から刀持ちちゃダメ、裸体禁止令なんてのも出されて相撲取りが罰金くらったりして存続も危ぶまれる始末。

剛也 本当に極端に変わっちゃったんですね。

喜国 しかも、欧米化によって再びキリスト教が入ってきました。キリスト教は禁欲的な宗教です。近代化のため多くの文化を捨てさり、なおかつキリスト教の流入。そのことで何が起きたかはおわかりでしょう。

剛也 *shit and lobster*の弱体化だ。

喜国 そう。欧米化という名の近代化で日本人は自らのアイデンティティを捨て去った。同時に *shit and lobster* も捨て去ったのです。

勝巳 なんてことだ！

江藤 あんなに気持ちいいのに！

剛也 宣教師たちの思うつぼじゃないか！

喜国 しかし決定的だったのは67年前のことです。

剛也 それってまさか。

喜国 67年前、この国は戦争に負けた。マッカーサー率いるGHQがまず最初に行ったのはshit and lobsterを根絶やしにすることでした。俗に言うlobster狩りです。この時に徹底的に弾圧され、shit and lobsterを知る者はごくわずかになりました。そしてあのスリーS政策です。

剛也 まさか、そんな。

勝巳 なに？ スリーS政策って？

剛也 GHQが占領下の日本に行った政策だよ。日本人を馬鹿にして社会問題や政治に関心を持たなくさせようとした愚民化政策だよ。

勝巳 そんなのがあったの？

剛也 ああ、スリーSってのはスクリーン、スポーツ、そしてセックス。映画やエンターテイメント、そしてプロ野球などのスポーツに夢中にさせ、生きていく上で必要なことを考えなくさせるってやりかただ。

江藤 そんな…え、でもセックスは？

剛也 確か、風俗とかを解放してセックスに溺れさせようって狙いだったと思う。

江藤 …ん？ でもそれだと、日本の土壌には合ってるんじゃないんですか？ 歴史的に見ても性に関してはおおらかだったわけだし。

剛也 確かに。

喜国 スリーエスで与えられたセックスは欧米的なセックスなんだよ。

剛也 欧米的なセックス？

喜国 shit and lobsterを知る前まで君たちがやっていたセックスのことだ。

勝巳 そういうことか！

喜国 君たちならわかるだろう？ Shit and lobsterと普通のセックスが比べものにならないことは。スリーエス政策によって日本人はセックスの粗悪品を掴まされたのさ。

それぞれの感想。

剛也 つてことは待ってください！ 俺達は生まれた時から奪われた状態だったつてことですか？ 本当は、日本人の俺たちの遺伝子にはshit and lobsterが流れているというのに。

喜国 そもそも性行為に形などないのだよ。それなのに我々は何かという形を求めてしまう。信濃町水道橋信濃町水道橋品川品川！ 君たちも覚えがあるだろう？（返事）…私と彼女の間のshit and lobsterはお互いの体に一切触れないで行われた。

勝巳 喜国教授？

喜国 直美を失くして、辛いだろうねえ。

江藤 彼女とは：最高の：セフレでした。

勝巳 教授は直美とは、どういう？

喜国 セフレだった。この六年間、直美との生活は私にとっての生きが이었다。

勝巳 時期かぶってんなあ。

剛也 直美さんが亡くなった今、*shit and lobster*を継承しているのはここにいる俺達だけってことになるんですか？

喜国 …直美のセフレの数による。が、まあ、そう考えてさしつかえないでしょう。後は本家を残すのみ。

勝巳 本家？

喜国 *shit and lobster*を先祖代々受け継いでいる家がある。(メモを渡す)ここに向かいなさい。彼らと力を合わせて、*shit and lobster*を守ってくれ。

江藤がメモを受け取り、三人去る。

少しの間。

トミーが喜国の背後に立つ。銃を構えている。

喜国 …しゃべり過ぎたかな。

銃声

暗転

(差し込み)

服部が新聞を読んでいる。

いつになく深刻な表情を浮かべている。

麻里がやってくる。

麻里 師匠、おはようございます。

服部 …。

麻里 お父さん、おはよう。

服部 ああ、麻里か。

麻里 どうしたの？ 珍しく深刻な顔して。

服部 いや。

麻里 ひよっとして、コボちゃんが面白くなかったの？

服部 いや、植田まさし先生が面白くなかったことは、ない。

麻里 良かった。大好きだもんね、お父さん。

服部 うん、大好き。

麻里 師匠。

服部 ん？

麻里 本日も修行、よろしくお願いします。

服部 …。

麻里 お父さん？

服部 麻里。

麻里 はい。

服部 修業は終わりだ。おめでとう。

麻里 え、でもまだ *shit and lobster* を教えてもらってないよ、お父さん。

服部 …。

麻里 答えてよ、お父さん！

服部 麻里、お前に話しておかなければいけないことがある。お前のお母さんのことだ。

麻里 お母さんのこと？

服部 いいかい麻里、よく聞きなさい。お前のお母さんはヤリマンだった。

麻里 …え？

服部 ヤリマンでレズだった。

麻里 重要な情報が多すぎて処理できないよ、お父さん。

服部 今朝の新聞に、民子が二番目に愛した人の記事が載ってた。あ、一番目は誰だと

思う？

麻里 そんなクイズ心の底からどうでもいいよ、お父さん。話を続けて。

服部 彼女の名前は直美さん。どうやら殺されたらしい。

麻里 殺された？

服部 彼女は **shit and lobster** の継承者だったんだ。

麻里 **shit and lobster** の継承者だと、なぜ殺されてしまうの？

服部 (気配を察知し) 全てを話してやりたいが、時間が無い。

麻里 ちょっと待ってよお父さん！ お母さんはなんでヤリマンなの！ なんでレズなの！ だとしたらお父さんとお母さんの関係ってなんなの！ 私はいったい誰の子なの！ **Shit and lobster** っていったいなんなの！

服部が麻里を抱きしめる。

服部 お前は、お父さんとお母さんの子だ。

麻里 …お父さん。

服部 麻里、師匠として最後の修行を命じる。

麻里 はい。

高い高いするように麻里を台の上に乗せる。

服部 しばらくここに隠れてなさい。

麻里 お父さん？

服部 何があっても出てきちゃいけないよ。

麻里 お父さん！

服部が扉を閉める (マイム) + S E。

しばらくするとトミーがやってくる。

服部 (余裕の笑み) お前らどこのもんだ？ C I Aか？ モサドか？ フリーメーソ

ンか？ イルミナテイカ？ ロックフェラーか？

トミー …。

服部 まあ、なんでもいいや。お前、俺を殺しにきたのか？ それとも **shit and lobster** を殺しにきたのか？

トミー (メモを読みながら) オーマエーガケイシヨージャカ？

服部 あん？

トミー (メモ) ムースマーガーイールーハーズダ。ムースマーヤーダーセ。

服部 カタカナで喋るんじゃないええ！

音楽。

割とちゃんとした立ち回り。

トミーが負ける。

服部 そんなものか。

トミー ……。

服部 その程度で力で **shit and lobster** を滅ぼそうというのか、笑止。

トミー ……。

服部 冥途の土産に見せてやろう、**shit and lobster** の真の力を。

服部が雄たけぶとハイテンポなアイリッシュが流れ出す。

一見踊っているようにも見える。

時々トミーが立ち向かうが跳ね返される。

音楽が止まる。

服部 見たか？ これが **shit and lobster** の力だ。日本人の力だ。

トミー ……。

服部 これで終わりだ！

銃声

服部が倒れる。

ウィルが現れる。銃を手にしている。服部が死んでいるのを確認する。

ウィル (メモ) ハージーマーカー、チャカツカエオタンコナス。

トミー ソーリー。

ウィル (メモ) ムースマーハ？

トミー (メモ) ワカラン。

ウイル (メモ) コーイーツーヲカタズケテツギニイクゾ。

トミー OK。

二人が死体を運ぶ。

麻里 …お父さん。

隠れている麻里。

麻里 …お母さん。私、どうしたらいいの？ 一人になっちゃったよ、一人ぼっちになっちゃったよ、私。これからどうしたら…。

光輝いた民子（高橋悠）が現れる。

民子 …麻里、麻里。

麻里 お母さん？

民子 麻里。

麻里 お母さん！ お母さんに聞きたいことがあるの！

民子 なあに？

麻里 お母さんはヤリマンだったの？

民子 ヤリマンよ。

麻里 レズだったの？

民子 レズよ。

麻里 …どうして。

民子 麻里、お母さんはね、ヤリマンでレズで、あなたのお母さんなのよ。

麻里 なんてそんなことに。

民子 *shit and lobster*を知ったからよ。

麻里 *shit and lobster*ってなんなの？ 体位なんじゃないの？

民子 体位よ。この国で生まれてこの国と共に育まれた体位。今では失われかけているけれど、この日本という国そのものの体位。

麻里 この国そのもの？

民子 お母さんはね、お父さんから *shit and lobster*を教わって気づいたの。 *Shit and lobster*の本質に。

麻里 この国の本質に？

民子 （頷く）それはね、全てを受け入れること。

麻里 全てを受け入れる…その結果、レズになったの？

民子 そうね。性別の概念なんてあつという間に超えたわ。

麻里 ビッチ、ビッチだよ、お母さん。

民子 それも喜んで受け入れましょう。でもね麻里、お母さんのことをビッチと蔑む心こそ、あなたの心が毒されている証拠。

麻里 どういうこと？

民子 この国はね、 *shit and lobster* は一度だけ心を閉ざしたことがあるの。ずっと昔にね。ずっと受け入れ続けていたのに一度だけ拒んでしまった。それが今も影響して

いるのよ。

麻里 何を言ってるの？

民子 あのととき受け入れていればよかったのよ。受け入れて、取り込んでしまえばよかったの。ずっとそうだったのだから。だからこの国はいびつになってしまったの。

麻里 お母さん。

民子 女性に貞淑さを求めたり童貞を馬鹿にしたり、そんな価値観はほんのここ数十年のことなのよ。それだって、誰かが得をするからそう思わされてきただけ。この国の性はもっとおおらかなもの。好きな人に好きという気持ちを伝えるのに苦しまなければいけないなんて、なんて愚かなことなのでしょう。

麻里 お母さん！

民子 麻里、全てを受け入れなさい。受け入れるということは愛すること、慈しむことよ。

麻里 ……全てを受け入れる。

民子 もうじきお父さんが来るわ。

麻里 そうだった、お父さん殺されたんだった。

民子 麻里、それも受け入れなさい。死はひと時の別れ。決して永遠の別れではないわ。

麻里 そんな。

民子 その証拠にお父さん、めっちゃママチャリこいでこっちに向かっているわ。あら笑っている。

麻里 見えるの？

民子 ええ。あ、今スケボーに乗り換えた。

麻里 そうなんだ。

民子 頑張ってるね、麻里。

麻里 あ、お母さん、待って！ 私まだ *shit and lobster* を知らないの！

民子 大丈夫。 *Shit and lobster* はあなたの中にちゃんとあるから。

麻里 私の中に？

民子 ええ。それじゃあね麻里。いいこと、全てを受け入れるのよ。

麻里 待って！ お母さん！

民子、消える。

麻里が民子を追うが、そこは閉じ込められた場所。

剛也、勝巳、江藤がやってくる。

勝巳 多分ここだと思っただけど。

剛也 ふーん、神社ねえ。

勝巳 人がいる気配はないけどなあ。

江藤が地面に手を当て怪訝な表情を浮かべている。

勝巳 どしたの？

江藤 いや、わかんない。

勝巳 なんだよ。

江藤 いや、なんかあるような気がして。

剛也 …あのさ、二人とも、いいの？

勝巳 何が？

剛也 ここまで来といてこんなこと言うのもなんだけど、引き返すなら今かなって思うんだ。俺が思うに、今回の一件、相当ヤバいと思うんだ。命の保証は無いと思う。

勝巳 なんだ、そんなことか。

剛也 そんなことかって。

勝巳 うーん、なんて言ったらいいのかわかんないんだけどさ。

剛也 うん。

勝巳 教授の話して聞いていて思ったんだけどさ。思った？ いや、感じたかな。これはさ、俺のことなんだと思うんだよ。俺のこと？ あー、上手く言えないな。なんてうかさ、自分が生きてる意味とか考えたりすることあんじゃん？

剛也 うん。

勝巳 それがこれなんじゃないかと思うんだ。

剛也 自分のアイデンティティを見つけた？

勝巳 そうそれ！

剛也 教授も言ってたもんね。Shit and lobster は日本人のアイデンティティそのもだつて。

勝巳 うん。剛也さんはいいの？

剛也 うん。多分今俺達が置かれてる状況は相当ヤバいはずなんだけど…めっちゃワク

ワクしてる！

勝巳 あーわかる！ その感じ！

剛也 でしょ！ でしょ！

勝巳 江藤君は、いいの？

江藤 僕は、愛するセフレが殺された時から覚悟は決めていますから。

勝巳 そうだったね。

三人が顔を見合わせる。

剛也 (手を出し) 未来妻の為に。

勝巳 (手を重ね) 妻と子供の為に。

江藤 (手を重ね) セフレのために。

なんか声を合わせて叫ぶが合わない。

剛也 あとでちゃんと決めよう。

勝巳 そうだね。

剛也 しかしホントに誰もいないのかな。(探す)

勝巳 だねえ。(探す)

江藤 あ。

勝巳 ん? どうしたの江藤君。

江藤 気がついたんですけど。

勝巳 どしたの?

江藤 剛也さんって顔デカいですよね。

剛也 え?

勝巳 言われてみれば!

剛也 いや、俺が顔デカいのは今関係…

勝巳 デカい! マジでデカい!

江藤 ねえ! デカいでしょう!

剛也 いや、だからその…

顔がデカいで盛り上がる二人。

剛也 (逆ギレ) 顔デカいダンス〜! 顔デカいダンス〜!

二人が爆笑している。

扉が開くSEと光。

驚いて扉の方を向く三人。

麻里 ……本当だ…顔がデカい。

沈黙

麻里 …開けちゃった。お父さんが死んだ時も開けなかったのに。

剛也 …君が本家の人？

麻里 麻里と申します。あなたがたは？

勝巳 我々は *shit and lobster* を受け継ぐ者です。

なぜか片膝をついて傳く三人。

麻里 そうですか。確かに私は *shit and lobster* を代々受け継ぐ家の者。ですが、私はまだ *shit and lobster* を知りません。なぜなら、まだちゅーもしたことがないからです。

剛也 他に家の人は？

麻里 私だけです。

三人が目を合わせる。

剛也 我々三名はこの命をあなたに捧げる所存です。どうぞ、この命、ご自由にお使い下さいませ。

麻里 受け入れましょう。

剛也 はは！ ありがたき幸せ。

麻里 お母さん、受け入れるっていうのはこういうことなの？

江藤 うん？

勝巳 どうした？

江藤 鼠が二匹。

勝巳 来たか。

三人が麻里を守るように陣形を組む。

剛也 出てこい！ 下郎！

トミーとウィルが出てくる。

対峙。

剛也 やあやあ、遠からん者は音にも聞け、近くば寄って目にも見よ、我こそは、武蔵の国の旋盤工、山田剛也なり、見事この首とつて手柄にせよ。

勝巳 お控えなすって！ 早速のお控えなすってありがとう存じやす。手前、生国と発しやすは武州八王子にごさんす。親分と発しやすは、*shit and lobster* 本家の若造

ざんす。姓発しやすは姓は石田、名は勝巳、発しやしては石田勝巳と申しやす。

二人が江藤を見る。

江藤 ……セフレのかたきいいいいい！

音楽

立ち回り。

一度背中合わせで寄る三人。

勝巳 流石に強いね。

江藤 ええ。でもなんだか僕もちよっとだけ強くなった気がします。

剛也 これがアイデンティティってやつのか。

もう一度立ち回り。

江藤 麻里さん！ 逃げるんだ！

麻里 でも！

剛也 俺達のことはいいから！

勝巳 あんたさえ生きていれば、この国はいつだってやり直せる！

健闘する。

江藤 早く逃げるんだ！

剛也 充分健闘しているが、元々俺達は旋盤工と、無職と

江藤 ブックオフの店員です。

剛也 今知った。だからいつまでももたない！

麻里 出来ません！

劣勢になっていく。

麻里 お父さん、お母さん、私はどうすれば…

SE 民子の声 「全てを受け入れるのよ」

麻里が括目する。

麻里 全てを、受け入れる。わかったわ。

三人が固まって崩れている。

剛也 畜生。

勝巳 結構頑張ったんだけどな。

江藤 でも、お二人ともカッコよかったですよ。日本一カッコいい旋盤工と日本一カッコいい無職でした。

勝巳 江藤君も日本一カッコいいブックオフの店員だったよ。

江藤 (睨みつけながら) いらっしやいませこんにちわー。

トミーに蹴りを入れられる。

麻里 待ちなさい！

トミーとウィルが止まる。

麻里 あなたがたの目的は私のはずです。

トミー (メモ) オーマーエーガーケイシヨウシヤカ？

麻里 そうです。あなたがたに私の命をさしあげます。ですからこの三人を解放して下さい。

勝巳 麻里さん！ ダメだ！

麻里 みなさん、ありがとう。出会ってものの五分なのに命がけで守ってくれて。

剛也 出会ったのはもの五分かもしれないけど、あなたの体にはは何百年もの歴史が…。

麻里 いいんです。これも私の、この国の運命なのでしょう。私は全てを受け入れます。

江藤 麻里さん。

麻里 みなさんに出会えて良かった。さあ、おやりなさい。

トミーとウィルがにやけて麻里を囲む。

ウィル コレデコノクニモオワリダ。

二人が雄たけびをあげて麻里に向かう。

スローモーション。

光が麻里だけを抜き。

麻里 受け入れる。受け入れる。私は全てを受け入れる！

麻里の背後に *shit and lobster* の本体。

麻里の指が二人の体に触れる。

音と光が麻里を包む。

ゆつくりと世界が元に戻る。

トミーとウィルは死んでいる。

勝巳 え？ 何が起きたの？

江藤 ちょっと、こいつ死んでる。

剛也 こっちもだ。

麻里 腹上死です。

三人 ええ！

麻里 私は彼らを受け入れました。受け入れて、慈しみ愛することにしたのです。

勝巳 じゃあ、さっきのは？

麻里 愛撫です。

江藤 触れただけで腹上死、なんてパワーなんだ。

剛也 これが、*shit and lobster* のちから。

麻里 お母さん、わかったよ。受け入れるってこういうことだったんだね。(叫ぶ) お父さん！ お母さん！ 私、ヤリマンになるからー！ とーっても素敵な、ヤリマンになるからー！ …そして、この国がまた *shit and lobster* で溢れる国にしてみせるから。

良さげな音楽。

麻里が去ろうとする。

勝巳 麻里さん、どこへ？

麻里 わかりません。五反田か、池袋か、鶯谷か、私を必要としている人がいるところ
へ。

江藤 また、会えますよね？

麻里 ええ。この国にいる限り、きっと。…さようなら。

麻里がいなくなる。

勝巳と江藤もいなくなる。

剛也がそれを見送って自分の椅子に座る。

剛也 …shit and lobster。

奥にかおりがいるらしい。

剛也 というわけなんだよー。

かおり へー。

剛也 え？ それだけ？ 死ぬかもしれないなかったんだぜー、俺。

かおり あー。でもー、なんだか荒唐無稽過ぎてリアリティがねー。

剛也 なんだよそれー。俺はこの国を守ったヒーローなんだぜー。

かおり そう言われてもねー。

剛也 ちえー。

かおりがやってくる。

かおり ふふ。この国を守ってくれてありがとうございます。

剛也 お前それ絶対信じてないだろー。

かおり (笑) そんなことないよー。

剛也 ったく。

かおり あれ、でも、剛也、なんだかちよっとだけ男らしくなった気がする。

剛也 ほんと？

かおり うん。

剛也 あ、そう(ニヤニヤ)あ、そうだ、かおり、これ。

婚姻届を出す。

剛也 明日さ、二人で出しに行こうか。

かおり ……いいの？

剛也 うん。

かおり やったー！ 剛也大好き！（抱きつく）

剛也 うん。それでさあ。

かおり なに？

剛也 その前にさあ。日付変わる前にさあ。しよっか、shit and lobster。

かおり ふふーん。

剛也 何？ どうしたの？

かおり ごめん、生理きちゃった。

剛也 ……マジかよー！

Shit and lobster が流れる。

おしまい。